



# “SINRAI Project” JICA 社会保険実施能力強化 プロジェクト

ニュースレター第 20 号 2018 年 2 月

## 社会保険庁主催業務改善取組みコンテスト

過去 3 回の日本で行われた研修参加者をチームに分け、日本で学んだことを活かしながら、更なる業務効率化・業務改善のアイデアを出し、チームごとに競い合う業務改善コンテストが社会保険庁で行われています。



チームからの相談を受け、日本人専門家は、日本における年金実務や、障害者や高齢者の方々も使いやすい年金事務所の整備についてアドバイスをしました。



今後、これらのアイデアや取組みがより多くの社会保険事務所に広がり、各区、各県の社会保険事務所のお客様サービスがより向上することが期待されます。

## ハンオール区社会保険事務所での DET(障害平等)研修の開催

1 月 18 日、JICA ウランバートル市における障害者の社会参加促進 (DPUB) プロジェクトと合同で、ハンオール区社会保険事務所を訪問し、社会保険庁の職員に対し、DET (障害平等) 研修を実施し、その後、同事務所のアクセシビリティチェックを行いました。



社会保険庁においては、上記のとおり、これまで日本へ研修に行った職員の間で業務改善案を競い合うコンテストが実施されています。その取組みの一環として、2017 年 11 月に行われた日本研修の



参加者が中心となり、SINRAI プロジェクトに対して、DET 研修及びアクセシビリティチェックの実施の依頼があったことから今回の研修が実現しました。

研修には、日本での研修に参加した職員だけでなく、同区社会保険事務所の職員も参加し、講師からの問いかけに熱心に答える姿が多く見られました。

また、アクセシビリティチェックでも、職員が今後の施設改善のため意欲的に取り組んでいました。プロジェクトが始まり 1 年半が過ぎましたが、今回のように、社会保険庁の職員による自発的な業務改善の取組みが行われることは、非常に喜ばしいことです。



今後、社会保険庁・事務所のお客様、とりわけ障害者を対象としたサービスの更なる向上を目的とした取組みが全国に広がっていくことを期待しています。



## 連載：草原の国の社会保障（第 20 話） “現金給付と現物給付”

皆さま、こんにちは。今回は国民に食パンを配布する方法を通じて、「健康保険」の給付の仕方について考えてみましょう。

仮の話ですが、お腹を空かせた 100 人の大人がいたとし、彼らに食べ物を給付することを考えてください。方法としては、①食パンが購入できる現金を支給する、②国が食パンを市場から買い上げて直接給付する、という二つの方法がありますよね。前者が現金給付、後者が現物給付といいます。

では、現金給付と現物給付について、健康保険を例にして考えてみましょう。

まず現金給付です。治療に要した費用を現金で患者に給付した場合、その後、患者は治療費を病院に支払います。ところが、健康保険から受給した現金の額よりも病院に支払う治療費の額が高かった場合どうなるでしょうか。残りの差額は患者が負担しなければいけませんね。

どうして、病院に支払う治療費の額が高くなるのでしょうか。先ほどの食パンの例を思い出してください。お腹を空かせた大人に、食パンを購入するための現金を渡したとしても、その額で食パンを市場から購入できるとは限りません。もし、食パンの数が限られている場合、食パンを売る側は、当然、高い値段で購入してくれる者に売ります。同じように、治療は病院でしかできない以上、病院側は治療費の額を自由に定めることができます。サービスを受ける患者よりも、サービスを供給する病院側が圧倒的に有利であるため、患者は、病院が示す価格を払わざるを得ないのです。

そこで、現物給付という方法が採用されています。健康保険を運営する国が治療の価格を事前にすべて決め、この価格で治療をすれば必ず治療費を健康保険から支払いますという契約を病院側と結ぶことで、患者（健康保険の加入者）は、病院と価格交渉をする必要はなく、病院が提供する治療を受けることができます。支払いは、後で病院が健康保険に請求します。

サービスや商品の売買は、本来、政府が介入せず、自由であるべきです。しかし、売買が自由のため、社会的

な公平が保てなくなるような「医療」については、現物給付が望ましいことを分かってください。

JICA チーフアドバイザー 山下 護

## 年金数理研修開催に向けての準備

長期に安定した年金制度を整備するために必要である年金数理の専門家をモンゴルで育成することを、当プロジェクトでは目標の一つとして活動しています。今年 4 月にも、日本から短期専門家呼び、第 4 回目となる年金数理研修を開催する予定です。

同研修に関連し、山下チーフアドバイザーは、1月19日に、モンゴル国家統計局を訪問し、アマラル人口社会統計局長と意見交換しました。次回の年金数理研修に、人口動態や社会保険の統計を扱う若手の優秀な職員に参加してもらおうようお願いし、快諾を得ました。関係する機関の若手職員が協働し、将来の年金の収支見通しがより精緻になっていくようプロジェクトとして支援していきます。



アマラル人口社会統計局長、職員の皆様と撮影

また、モンゴル保健省保健開発センターにも訪問し、統計部門のダワールガルさんとボルドバートルさん



にもお会いして、同年金数理研修に参加してもらおうようお願いし、快諾を得ました。このセンターでは、モンゴルで年齢別の死因のデータを持っており、死亡率の将来の変化が分かるのではないかと期待しています。

保健省保健開発センター統計部門の職員の方々との撮影

## SINRAI プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル医療・社会保険庁内  
6階 602号室 電話(FAX)番号：(+976)-11-325125

公式 Facebook アカウント：Жайка Нийгмийн Даатгалын төсөл

ニュースレターのバックナンバーはこちらから

<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>

